

IBC 岩手放送

活動名	小学校授業支援
実施期間	令和 5 年 12 月 1 日、令和 6 年 1 月 29 日
実施回数	学校 2 回

【実施学校】 盛岡市立山王小学校、盛岡市立大慈寺小学校

【事業実施の成果・課題】

<第 1 回 山王小学校>

- ・テレビニュースが作られていく過程を紹介することで、速報性、正確性、公平性、公共性といった原則のもと、細心の注意を払って放送していることを知ってもらうことができた。
- ・ニュースの意義や使命、そこに込められた思いを伝えることで、情報があふれる社会で取捨選択する力を養うことの大切さを感じてもらえた。
- ・「岩手県市町村名チャレンジ」では、話し合いながら活発に自治体名を挙げてくれた。改めて広い岩手を舞台にしている放送の意義を理解したようだ。

<第 2 回 大慈寺小学校>

- ・放送局の情報発信は、何人もの人が関わり、何回もチェックをすることで正確性や公平性を守っていることを伝え、SNS で個人が発信している情報との違いを伝えた。
- ・質疑応答では、アナウンサーのやりがいについてや、ニュースができるまでかかる時間、おすすめの番組など様々な質問が飛び出した。

【事業担当者の感想】

<第 1 回 山王小学校>

- ・普段何気なく見ているニュースの裏側を知ってもらうことで、より IBC やアナウンサーに親近感を持ってもらえたのが嬉しかった。この親近感が今後の視聴習慣にもつながって欲しい。
- ・「岩手県市町村名チャレンジ」では『祖父母が住んでいる』『海水浴に行った』等、そのまちと児童の繋がりがイキイキと語られた。やり取りを通し「インタビュー」というアナウンサーのスキルも実感できたと思う。

<第 2 回 大慈寺小学校>

5 年生が生まれる前に起きた東日本大震災時の IBC ラジオが果たした役割や、1 月 1 日に起きた能登半島地震でテレビ番組がすべて報道特別番組に切り替わったことなど、震災時の放送局の役割について共に考えることができた。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

＜第 1 回 山王小学校 紀修校長＞

メディアリテラシーを養うきっかけになるだけでなく、アナウンサーや報道記者といった職業について知ることで、子どもたちのキャリア教育にもつながった。

＜第 2 回 大慈寺小学校＞

難しい言葉を使わずに、自分たちが見ている番組を例にとってメディアが果たす役割を説明してもらえて理解が進んだ。楽しく学ぶことができた。